

今後の企業と大学との 協力の在り方について

< とある中小企業の **ホンネ** >

2015年6月16日

株式会社エヌデー
代表取締役 塚田英貴

目次

- 1. 会社概要
- 2. 事業概要
- 3. 採用実績
- 4. 当社における人材育成モデル
- 5. 当社が大学に求めること
 - 5-1 学生への啓蒙
 - 5-2 インターンシップについて
 - 5-3 大学との連携について

1. 会社概要

社名	株式会社エヌデー
設立	1971年4月1日
売上高	40億円（平成26年度）
代表取締役	塚田 英貴
資本金	4,500万円
社員数	316名
事業所	中野坂上(本社)、水戸事業所
事業内容	システムインテグレーションサービス、数値解析(科学技術計算) 病院情報システムのヘルプデスク、システム運用・保守サービス



経済産業省SI認定 || 中野区優良申告法人



ISO9001認証取得 || プライバシーマーク認証取得 || ISO/IEC27001(ISMS)全社認証

2. 事業概要

■ ソリューションの得意分野

独立系システムインテグレータとして、得意分野を定め追求。

特に医療・クレジット・会計・数値解析・ダム制御の分野における業務ノウハウをベースにしたシステムソリューションに自信あり。

医療

- 大学病院、国立病院様／医療情報システム等
- 調剤薬局様／調剤薬局システム等

オリジナルソリューション

医薬品在庫管理システム、輸血管理システム、治験管理システム、病歴管理システム、
地域連携部門院内システム、未収金管理システム

公益

- 自治体様／統合文書管理システム、公営企業会計
- 法令出版会社様／生産管理・販売管理システム
- 鉄道会社様／駅収入管理システム、不動産管理システム、社内システム
- 物流会社様／物流管理システム
- 独立行政法人様／ERP関連システム

金融

- クレジットカード様／カード決済システム、Web入会システム、偽造悪用管理システム、画面与信システム
- 自動車ファイナンス様／オートリースシステム、キックバックシステム、ワランティーシステム
- 保険会社様／保険契約販売手数料計算システム、個人保険システム

解析 ・ 制御

<解析>

- 研究機関様／熱流動解析、燃焼解析、構造解析、熱流動解析コード用プリ・ポストプロセッサ開発

<制御>

- 電力会社様／ダム制御システム、電力制御システム
- 携帯電話会社様／局間通信用交換システム

3. 採用実績

3-1 最近10年間の採用実績(含む院卒)

年	採用数	男性		女性	
		文系	理系(含情報系)	文系	理系(含情報系)
2015年	16	5	8	2	1
2014年	12	4	5	1	2
2013年	9	1	7	1	0
2012年	6	3	2	0	1
2011年	9	5	3	0	1
2010年	18	8	8	1	1
2009年	19	7	9	2	1
2008年	18	3	11	2	2
2007年	18	6	10	1	1
2006年	13	2	9	0	2

3. 採用実績

3-2 最近10年間の採用実績校(院卒を含む)

国公立大学

京都大学

信州大学

東京大学

山形大学

会津大学

群馬大学

千葉大学

東京農工大学

横浜市立大学

茨城大学

埼玉大学

筑波大学

名古屋大学

宇都宮大学

滋賀大学

電気通信大学

新潟大学

私立大学

神奈川大学

芝浦工業大学

専修大学

千葉工業大学

東京女子大学

同志社大学

日本大学

明治大学

青山学院大学

慶応義塾大学

上智大学

大正大学

中央大学

東京電機大学

東邦大学

白鷗大学

立教大学

亜細亜大学

国士舘大学

駿河台大学

多摩大学

帝京大学

東京都市大学

東洋大学

法政大学

立正大学

学習院大学

駒沢大学

成蹊大学

玉川大学

東京工科大学

東京理科大学

二松學舎大学

武蔵大学

早稲田大学

※50音順

3. 採用実績

3-3 在籍者出身別人数割合(院卒を含む)

日本大学	23名	埼玉大学	6名
東京理科大学	18名	青山学院大学	5名
明治大学	10名	筑波大学	5名
東京電機大学	9名	東洋大学	5名
早稲田大学	9名	法政大学	5名
慶応義塾大学	8名	専修大学	4名
茨城大学	7名	玉川大学	4名
中央大学	7名	山形大学	4名
電気通信大学	7名	駒澤大学	3名
東邦大学	7名	千葉大学	3名

※20校まで、人数順、50音順

※国公立 22%、私立 78%

4. 当社における人材育成モデル

4-1 新入社員教育

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
集合研修	導入研修			正式配属			フォローアップ研修			合宿研修			論文発表会
OJT	部門研修(基礎)			部門研修(実践)									
ターゲット	ビジネスマナー コンピュータの基礎知識 プログラミングの基礎 プロジェクト演習			プログラミング ネットワーク技術 データベース技術 プレゼンテーション技法(基礎)				ソリューション提案力養成 提案書作成技法(論文作成) プレゼンテーション技法(応用実践)					

最重要経営テーマの1つ

★新人をいかに「早く」、戦力となるSEにするか！

4. 当社における人材育成モデル

4-2 2年目以降の研修

NEM（徒弟制度）

- ・先輩がトレーナーとして若手に1対1につき、年間を通してフォローを行っていく教育制度

スキルアップ10

- ・一定の条件をクリアした社員は年間10万円まで自己スキルアップのために使用できる制度

FF研修（2泊3日の合宿研修）

- ・人事制度上ワンランク上がるタイミングでの若手を対象としたリーダー研修

プロジェクトマネジメント研修

- ・PMBOK(プロジェクトマネジメント知識体系ガイド)に則り、マネジメントの技法について学ぶ研修

資格対策研修

- ・IT系公的資格の資格対策研修(全4日間)

エンジニアリングコンベンション

- ・社内技術発表会での発表

技術研修（オープンセミナー）

4. 当社における人材育成モデル

4-3 当社の採用方針(参考)

● 面接重視



1 ・ SEとしてのポテンシャル(論理的思考力)

2 ・ ビジネスに対するモチベーション

3 ・ プロジェクトにおけるコミュニケーション力

4 ・ 「真摯」かつ「良心的」な姿勢

5. 当社が大学に求めること

5-1 学生への啓蒙



★「就活」によって初めて「ビジネスの世界」を知るのでは、あまりにもGAPが大きい。

★「就活」というテーマからのみ「ビジネスの世界」を知るのは不十分である。

5. 当社が大学に求めること

5-1 学生への啓蒙

当社における早期退職者

ほとんどの早期退職者は、他業界/他職種へ転職している

SEという職種に対し
ミスマッチが起きている

GAP

大学卒業時に「自分がやりたいこと」が
わからない学生が多い

夢中になれる業界/職種を見つけるための支援を
学生に対して、幅広く実施することはできないか。

5. 当社が大学に求めること

5-1 学生への啓蒙

① **GAP** を埋めるために

★ **ビジネスをどう捉えるかを啓蒙する**

ビジネスの
「いろは」

- ・ビジネス倫理
- ・ビジネスモデル
- ・ビジネスマンの心得
- ・産業構造
(製造業、サービス業、金融業、IT産業・・・etc)
- ・学生とビジネスのマッチングを狙う
など

ビジネスの
「おもしろみ」

ビジネスとはどういうものか学ぶ

5. 当社が大学に求めること

5-1 学生への啓蒙

2014卒大学生(院生含む)
約63万人

文部科学省「学校基本調査」より

民間企業就職希望者
約42万人



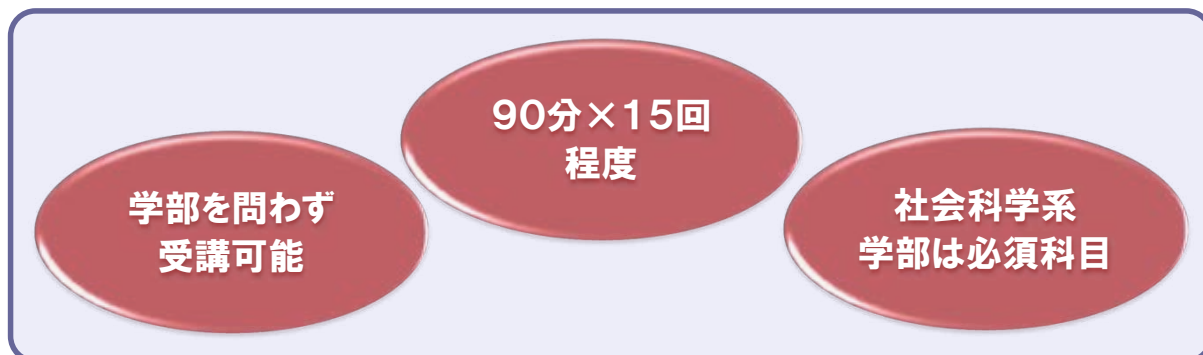
ビジネスを学ぶニーズは大いにある！

5. 当社が大学に求めること

5-1 学生への啓蒙

② 具体的には

★ 「ビジネス系科目:ビジネス原論(仮称)」の設置(科目化)



講師は退職者など企業OB、ボランティアに近い形で貢献
(当該大学OBならさらに良い)

5. 当社が大学に求めること

5-2 インターンシップについて

当社には実績がない

実施には大きなコストがかかるため、現場に受け入れる余裕がない。

もし実施するなら

SEの就業体験ができて、SEに興味をもってもらえ、学生がワクワクしながら取り組めるような少なくとも5日間以上のカリキュラムを作りたい。
しかし、これには時間もマンパワーも負担が大きく難しい。

採用には結びつけない

採用支援会社は、学生に対する宣伝機会になるという理由で、1日コースであっても実施することを強く勧めるが、採用と結びつけることに違和感があるうえに、1日コースで意味のあるインターンシップをイメージできない。

現時点では、今年もインターンシップの実施予定はない

5. 当社が大学に求めること

5-2 インターンシップについて

インターンシップを本当の学生教育という意味で実施するなら

企業側の本気の準備が必要／優秀なSEが指導してこそ意味がある

企業の採用活動と分離

中小企業においては

準備についても、実施についても余裕がない

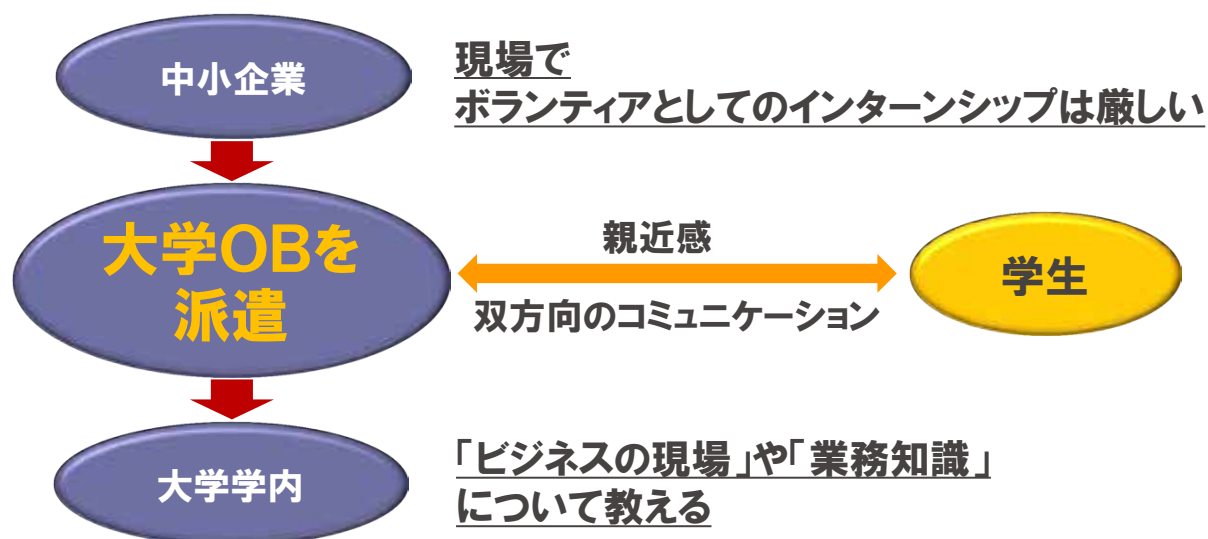


なんらかの公的なインセンティブが必要ではないか？

5. 当社が大学に求めること

5-2 インターンシップについて

① 大学OB をもって活用



日程や時間が限定できるので仕事の計画が立てやすい

5. 当社が大学に求めること

5-2 インターンシップについて

当社の場合であれば、こちらのモデルの方が

純粋なボランティア として、大学の**キャリア教育**に貢献しやすい

現役の社員による大学での リアル体験型ビジネス実習(短期)



大学内において、上記の**キャリア教育**を実現できる
環境およびシステムを構築できないか。

5. 当社が大学に求めること

5-3 大学との連携について

**OBは母校のために
ひと肌脱ぎます！**

5. 当社が大学に求めること

WITH SMILE & TECHNIQUE

ご清聴ありがとうございました。

